

春季東北高校野球 あす宮城で開幕 県勢3校 頂点挑む

第64回春季東北高校野球 青森山田、聖愛、八学光 して参戦。強豪がひしめく大会は8日、仙台市で星の県勢を含め、計18校、本県代表3校の県大会成績を基に躍進の鍵を握る。大会開幕を前に、本県代表の青森山田、寺岡、三上の両左腕を軸に、

光星 投手陣に明るい兆し



2年ぶり18回目の出場となる八学光星

東北大会出場3校の県大会の成績（下段は地区予選）

校名	試合数	得点	失点	打数	安打	打率	本塁打	犠打	盗塁	失策
青森山田	4	21	6	119	33	.277	0	10	4	3
聖愛	2	16	1	58	21	.362	0	5	4	0
聖愛	4	29	12	119	40	.336	3	12	2	6
八学光星	2	8	2	64	19	.297	1	4	0	1
八学光星	4	36	15	110	39	.355	2	6	6	2
八学光星	3	35	2	66	26	.394	1	6	7	1

を中心とした投手陣が県大会優勝けん引した。寺岡は身長160センチ小柄だが、切れのある直球が武器。三上は多彩な変化球で打者を翻弄（ほん）でも背番号11だった3年（ろ）県大会は継投策がはまり、大量失点を許さなかった。打線は長打や犠打で手堅く得点を重ねる。投手陣の粘りと鉄腕を軸に、

をフル活用し、本県第2代表の座をつかんだ。中（ろ）県大会は継投策がはまり、大量失点を許さなかった。打線は長打や犠打で手堅く得点を重ねる。投手陣の粘りと鉄腕を軸に、

でも一つ、打線は打率3割3分6厘、29得点と好調だが、課題は県大会で計6失策の守備。失点は最小限に抑えた。八学光星は主力のひがに苦しみながら、3位決定戦で八工大一を破って本県第3代表を獲得。エース候補・3年向井は東北大会に間に合う公算で、課題の投手陣に明るい兆し。主砲小池をほしめ打線は長打力が光り、県大会は参加校中トップの36得点。故障中の戦力が復帰すれば、打撃もさらに厚みが増す。強豪の

東北勢相手に、名門の（秋田県第1代表、青9日に盛岡大付（宮城県）を相手に、名門の（宮城県第1代表）とぶつかる。8日は八学光星が明桜2代表と対戦。聖愛は（佐々木大輔